



視覚文化の地図

(全8回)

視覚文化連続講座シリーズ1

Kyoto Foundation for Visual Culture

なんとなくわかったような気がしている「視覚文化」という文化領域。そんな「視覚文化」への理解を深めていただくため、きょうと視覚文化振興財団は連続講座を開催いたします。

本年度のテーマは「視覚の文化地図」。全8回の講座では、美術（浮世絵／日本画／洋画）、写真、マンガ、ポスター、装幀、テレビCMなどを題材に、それぞれの専門家が「視覚文化」を語ります。

開講時間／14：00～15：30

※質疑応答で30分程延長する場合があります。

会場／平安女学院大学 京都キャンパス

京都市上京区室町通下立売ル西側
地下鉄烏丸線「丸太町」駅2番出口より徒歩約5分

定員／40名（7月10日（金）から先着順）

受講料／全8回 8,000円（税込）

『須田記念 視覚の現場』2冊（春季号・秋季号）進呈

※通年受講者席とは別に若干数の聴講生枠を設けます。

1講座（1,200円／税込）のみ聴講ご希望の方は、事務局までお問合せください。

応募方法／下記に必要事項をご記入のうえ、FAXしてください。事務局よりご連絡いたします。

※HPからも受講申込書をダウンロードできます。

- 9月19日（土）
対談：本を造る——帯と装画と文学世界
■ 藤野可織（芥川賞作家） × ■ 岸文和（同志社大学名誉教授）
- 10月17日（土）
日本画・洋画そして彫刻と他の視覚表現
■ 原田平作（大阪大学名誉教授・元愛媛県美術館館長）
- 11月21日（土）
マンガは『文化』になれたのか？
——産業・文化・教育の側面から探るマンガの実相
■ すがやみつる（京都精華大学教授）
- 12月19日（土）
祭礼と視覚文化——仙台祭と仙台祭絵
■ 浅野秀剛（大和文華館館長・あべのハルカス美術館館長）
- 2021年1月16日（土）
視覚文化のグローバリティとローカリティ
——武藝（Wu Yi）作《西湖》をめぐる
■ 岩城見一（京都大学名誉教授・京都国立近代美術館元館長）
- 2021年2月20日（土）
視覚に訴える鉄道のイメージアップ策
■ 須田寛（JR東海相談役）
- 2021年3月28日（日）
過去による治癒——鉄道／観光広告のなかのキョウト
■ 佐藤守弘（同志社大学教授）
- 2021年4月17日（土）
テレビCMのレトリック——旅への誘惑
■ 岸文和（同志社大学名誉教授）

主催 一般財団法人 きょうと視覚文化振興財団、京都新聞
協力 平安女学院、京都新聞総合研究所

お問合せ

一般財団法人 きょうと視覚文化振興財団 事務局
〒611-0033 宇治市大久保町上ノ山51-35
TEL/FAX 0774-45-5511
mail info@kyoto-shikakubunka.com
HP https://kyoto-shikakubunka.com

FAXは切らずに送信してください

「視覚の文化地図」受講申込

月 日 申込

氏名	連絡先	TEL FAX	支払い方法 選択	☐ 郵便振替 ☐ 現金書留 ☐ 銀行振込
住所	きょうと視覚文化振興財団事務局 行 FAX 番号 0774-45-5511			

※ご記入いただいた個人情報は、本件以外の目的で使用することはありません。

1

対談：本を造る——帯と装画と文学世界

内容

- 造本／装本（レイアウト・印刷・製本）と装幀（表紙・見返し・扉・ジャケット・函）
- ジャケット／タイトル（タイポグラフィ）・装画・帯
- 著者・編集者・デザイナー・画家・イラストレーターの役割
- 単行本・文庫本・電子版（Kindle版）・全集
- 文学のジャンル・主題・様式

講師

藤野可織

小説家。2006年「いやしい鳥」で第103回文学界新人賞、2013年「爪と目」で第149回芥川賞受賞。最新刊は『ピエタとトランジ（完全版）』（講談社）と『ドレス』（河出文庫）。

2

日本画・洋画そして彫刻と他の視覚表現

内容

- 欧米における19世紀・20世紀の展開
- 近代日本における日本画と洋画、そして彫刻の展開
- 近代日本における工芸と書
- 近代日本における写真とデザイン
- 近代日本における建築、ファッションほか

講師

原田平作

きょうと視覚文化振興財団理事長。京都市美術館学芸課長・大阪大学教授を経て、2011年まで愛媛県美術館館長・名誉館長を務める。1999年、醍醐書房を設立し、『美術フォーラム21』などを発刊。

5

視覚文化のグローバリティとローカリティ
——武藝（Wu Yi）作《西湖》をめぐる

内容

- 「西湖」の歴史的層性
- 油彩文人画
- 白蛇伝
- 明清の肖像画
- 日本の視覚文化における「西湖」

講師

岩城見一

京都大学名誉教授。京都大学文学部助手、京都市立芸術大学美術学部講師を経て、2006～09年京都国立近代美術館館長。専門は感性論。「シリーズ『感性論』Vol.II」を電子媒体で公表中。

6

視覚に訴える鉄道のイメージアップ策

内容

- 駅頭に掲出する掲示類（視覚に訴える）の効果測定の実施とその結果（乗客行動の変化）
- 掲示のデザインの変化とその効果測定
- 視覚に訴えて職員の負担軽減測定
- 上記の結果、職員の接客態度の向上例

講師

須田寛

1931年、京都市生まれ。1954年から日本国有鉄道（旧国鉄）勤務を経て、東海旅客鉄道（JR東海）の初代代表取締役社長、代表取締役会長を経験、現在は相談役。L特急などを企画。

3

マンガは『文化』になれたのか？
——産業・文化・教育の側面から探るマンガの実相

内容

- 「週刊少年ジャンプ」が600万部突破、マンガの売り上げがピークに（1996年）
- 京都精華大学、マンガ学科を学部昇格、大学院マンガ研究科も新設（2006年）
- 経済産業省に「クール・ジャパン室」設立（2010年）
- 電子コミックの売り上げ増でマンガの売り上げが下げ止まる（2017年）
- ダイバシティ（多様化）の時代に突入したマンガ業界（2020年）

講師

すがやみつる

京都精華大学マンガ学部教授。1971年、『仮面ライダー』（原作・石ノ森章太郎）でマンガ家デビュー。1983年、『ゲームセンターあらし』『こんにちはマイコン』の2作で第28回小学館漫画賞受賞。

7

過去による治癒——鉄道／観光広告のなかのキョウト

内容

- 現実の京都、語られるキョウト
- 「そうだ 京都、行こう」の物語
- 現在の東京／過去の西京——近代日本のふたつの顔
- 京都・おんな・一人旅——歌われるキョウト
- 「ディスカバー・ジャパン」と故郷の再発見

講師

佐藤守弘

京都精華大学デザイン学部教授を経て、2020年より同志社大学文学部教授。芸術学・視覚文化論専攻。主に近代日本における風景やトポグラフィ（場所表象）の果たした社会的な機能について研究。

4

祭礼と視覚文化——仙台祭と仙台祭絵

内容

- 祭礼時に制作される画像
- 祇園祭と合羽摺「祇園神輿洗ねりもの姿」
- 仙台祭の大絵図の変遷
- 大絵図の主題とその獨創性
- 消えたイメージ、残されたイメージ

講師

浅野秀剛

1950年、秋田県能代市生まれ。千葉市美術館勤務を経て、2008年より奈良の大和文華館館長。2013年から大阪のあべのハルカス美術館館長を兼務。国際浮世絵学会会長。専門は日本近世絵画史。

8

テレビCMのレトリック——旅への誘惑

内容

- 物語の深層構造（欠如と充足／援助者の役割）
- 「ディスカバー・ジャパン——美しい日本と私」（1970～76年）
- 「ハッフルベリー・エクスプレス——会うのがいちばん」（1988～90年）
- 「クリスマス・エクスプレス——ジングルベルを鳴らすのは帰ってくるあなたです」（1989～92年、2000年）
- 「そうだ 京都、行こう。」（1993年～）

講師

岸文和

近畿大学助教授を経て、2020年まで同志社大学教授。専門は美学、美術史学、芸術学、視覚文化論。近世から近・現代にかけて流通していた（いる）庶民的・大衆のメディアに関心をもつ。



きょうと視覚文化振興財団

本財団は、京都の洋画家須田国太郎（1891-1961）のご遺族から、遺産を須田が目指した日本の美術振興にあててほしいとの申し出を受け、美術の研究を中心として2019年11月に発足いたしました。機関誌の発行、展覧会活動、講演会やワークショップの開催などを実施しております。

【活動に共鳴し、サポーターとして積極的にご参加いただける会員様を募集しております。】

財団の活動や講座の詳細はHPをご確認ください



<https://kyoto-shikakubunka.com>